ご自由にお持ち帰りください

さくらだより

ESH
さくら病院

SAKURA

日本医療機能評価機構認定

健・康・通・信

Vol.44

さくら病院の理念

愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する。

地域包括ケアシステムとさくら病院の役割

院長
江 頭 啓 介

社会の高齢化がますます進展し、限られた医療資源と財源という条件の中で、より良質で効率的な医療を実現するために、世界的規模で医療の変化が起こっています。

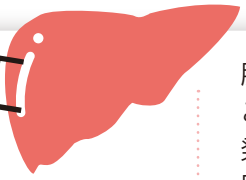
治療をする前に疾病の予防を、さらに健康の維持増進へ、そして病院から在宅へというシフトです。言い換えれば、患者さんの生活を主眼に置いた地域コミュニティー医療への移行です。この改革が各国それぞれの伝統的価値観と道徳観に沿って行われなければ、医療は国民の幸福に馴染まないものになってしまうでしょう。

我が国でも、団塊の世代が後期高齢者になる2025年を見据え、在宅医療の強化へと医療政策が進められています。住まい、医療、介護、予防、生活支援が、住み慣れた地域で他職種連携により、包括的かつ継続的に提供されるイメージで構築された、地域包括ケアシステムも昨年、法的に位置づけられました。このシステムは、総合診療能力を持っている地域の病院が関与してこそ、良いものになると思います。地域包括ケアサービス提供はご老人の自立力を支援し、新たな互助の社会を目指して、非営利の精神で行うという理念を明確にすることが活力ある高齢化社会創造のポイントです。

さくら病院に課せられた役割はとても重いと受け止め、職員一同、より良い医療サービス提供に努めて参ります。地域の皆様のなお一層のご指導をお願い致します。

放っとかないで！

脂肪肝



消化器内科医　古屋 陽子

どんな病気？

肝臓の細胞に中性脂肪が蓄積した状態を脂肪肝と言います。生活習慣の変化に伴う肥満の増加を背景に脂肪肝の患者さんが増え続けており、成人の約3割に達しています。男性では30歳代から、女性は更年期以降に多くみられます。
自覚症状はほとんど無く、健康診断の血液検査や超音波検査で見つかることが多い病気です。

原因は？

肥満や飲酒が主な原因です。食べ過ぎや飲み過ぎでエネルギーを多く摂ると、肝臓の処理能力が追いつかず、余った分が中性脂肪として肝臓に蓄積します。運動不足で消費されるエネルギー量が少なくなると、ますます溜め込みに拍車がかかります。アルコールはそれ自体が脂肪酸となって肝臓に溜まり、中性脂肪に変化します。

診断は？

血液検査ではAST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GTPが高値であることが多く、超音波検査では肝臓が「白く光って」見えます。

治療しないとどうなる？

アルコール性脂肪肝では飲酒を続けると慢性肝炎から肝硬変、肝がんにまで進展する可能性があります。
非アルコール性脂肪肝では、内臓脂肪性肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧などの生活習慣病を合併していることが多く、動脈硬化を促進し、心筋梗塞や脳梗塞などの発症につながる恐れがあります。また、非アルコール性脂肪肝の約1割は非アルコール性脂肪肝炎というタイプで、肝硬変や肝がんに進展する可能性があります。

予防・治療は？

生活習慣を見直しましょう。アルコール性の場合は、とにかく節酒、禁酒が一番です。非アルコール性の場合は、食事療法と運動療法の組み合わせが重要で、糖尿病や脂質異常症、高血圧などを合併している場合は薬物療法も行います。

食事療法

①ご飯、果物、おやつ、ジュース類を減らす
②脂っこい料理を減らす
③良質のタンパク質を上手に摂る
④野菜、きのこ類を多く摂る
⑤三食きちんと摂り夕食は軽めにする

運動療法

ウォーキング・水泳などの有酸素運動が効果的です。1日30分以上、できれば毎日、最低でも週に180分、大股の早歩きで颯爽と歩く習慣を作りましょう。なお、急激な体重減少はかえって脂肪肝の悪化をまねくことがあるため、徐々に減量しましょう。

終わりに

脂肪肝は生活習慣と密接に関連しています。脂肪肝の有無は体の健康の一つの鏡となるものですから、指摘された場合は十二分に注意し、早めに対策を練って肝臓の脂肪を除くことが大切です。

第185回 H24.12/13

いきいき公開セミナー

「放射線Q&A」

診療放射線技師　中島 孝一

福島第一原子力発電所の事故以来、今まで以上に放射線が注目されるようになりました。
そこで、第185回のいきいき公開セミナーは「放射線Q&A」と題し、仕事中やプライベートで質問される事やよくある素朴な疑問をわかりやすく説明させていただきました。今回はその中から、「自然放射線」についての説明を抜粋します。

自然放射線とは

宇宙からの太陽光などによる宇宙線、自然界に存在する放射性同位元素からの放射線です。土壌からの被ばく量は世界でばらつきがあり、日本では年間約0.5mSvです。最も高いのはイランのラムサールで日本の約20倍もありますが特別に住民の健康に影響はないようです。一般に体に影響を及ぼすといわれているのは100mSv以上からで放射線障害防止法でも被ばく限度を事故等処理時に最大100mSvまでと定められています。

第186回 H25.2/21

いきいき公開セミナー

「減塩はかせになろう!」

当院会議室で「減塩はかせになろう！」をテーマに当院実習中の中村学園大学3回生2名でいきいき公開セミナーを開催しました。
減塩は口では簡単に言うことができますが、実際には幼い頃からの味覚はなかなか変えにくいのが現状です。しかし減塩はどの治療食にとっても欠かすことが出来ません。
少しでも理解して頂くために、必要塩分量、塩分の摂り過ぎによる危険性、6つの減塩のポイント、バランスのとれた食事、運動とに分けて説明しました。
日常生活に使用している調味料の塩分量を実際に用意し、目で見て、減塩クイズを行い、皆さんが楽しんで参加でき、減塩を成功させる3つの心がけ「無理せず、楽しく、適量を」を知り、参加者に減塩はかせになって頂きました。

さくら病院は
平成24年4月より

「在宅療養支援病院」となりました。

在宅療養支援病院とは、24時間体制で往診や訪問診療、または訪問看護など在宅医療を行う病院のことです。

外来診療から在宅ケア・看取りまで一貫した医療ケアを提供できることを目指し、当院で定期的に訪問診療を受けている患者様に対し、夜間・休日も含め急な病状の変化時に、訪問看護ステーションさくら、連携している診療所の先生と共に24時間往診が可能な体制を確保できるようになりました。また、病院と診療所が連携をとっている為、緊急時は入院も可能です。

連携診療所

もとむらクリニック	福岡市城南区干隈2-8-28
江下内科クリニック	福岡市城南区樋井川1-6-26
原クリニック	福岡市城南区梅林4-21-23
とよしまファミリークリニック	福岡市中央区谷1-9-22

以上のクリニックの先生方と協力の元、実施しています。
尚、上記のご利用は、当院かかりつけの患者様で「在宅療養同意書」の内容を確認し、当院の訪問診療を希望される方となります。
当院外来通院中の患者様で、通院が大変になってきたなどお困りの時は、外来看護師へお気軽にお尋ね下さい。

リスク委員会活動報告

病院内の転倒転落予防対策について

私達リスク委員は病院の危険防止対策のチームです。患者様が安全安楽に過ごせるように検討し、間違いを減らし、問題が何かあれば迅速に対応出来るように活動しています。

今年度リスク委員では、転倒転落件数を減らす事を目標に病院内の防止対策の徹底に取り組みました。

まず**転倒転落防止グッズを増やし対策を強化！**
5月に部署内勉強会にて知識と意識を高め、7月に**院内パトロール**で対策がきちんと守られているかチェック！
又、院内研究発表で転倒転落防止対策のシステムについて発表し**院内の危険認識意識の浸透**を図りました。
11月の医療安全週間ではリスク委員が普段の優しい心を鬼にして再度院内パトロールを行い、チェックマンになりきって実施状況を確認！

その活動内容の結果、昨年より転倒転落件数は減少しました。

全職員で取り組んだ成果ですね＼(◎o◎)／

安全な医療サービスが提供できますよう常に危険認識への意識を高く持ち、安心して患者様が過ごせますようこれからも継続していきましょう。

継続は力なり！

てんとう虫

センサーマット

品質方針

医療法人社団　江頭会　さくら病院は、顧客第一主義を基本理念として、良質の医療・介護サービスの提供と働きやすい職場づくりの改善を継続的に行ってまいります。

そのために人間性、知識、技術の３点を合わせて、個々のレベル向上と個々を基盤とした確かな組織づくりを継続的に行ってまいります。具体的には、以下の３点に集約し推進します。

1. 顧客のニーズと期待、及び法令・規制要求事項を把握し、これらに適切な医療・介護サービスを提供いたします。
2. さらに魅力ある切れ目のない医療・介護サービス提供を目指し、医療・介護サービスの有効性の継続的改善を行ってまいります。
3. 顧客のプライバシー保護には特段の配慮を致し、手段については有効性の継続的改善を行ってまいります。

2010年３月26日　医療法人社団江頭会　さくら病院 理事長　江頭　啓介

病院の診療指針

1、一期一会を大切に
2、友愛ともにいたわりともに励ます
3、医療は信頼から
4、多忙な中にも対話を忘れずに
5、医療サービスは深い思いやりをもって
6、慢心は敵、安全医療に徹する
7、快適な職場づくりは
　ひとりひとりの心掛けから
8、救急協力は無償の愛をもって
9、向上心をもって医療に取り組む

看護サービスの基本理念

1、患者様との触れ合いを大切にし、安全で思いやりのあるケアーを行う。
2、医師及び他部門と協働し、働きやすい職場づくりを行う。
3、看護・介護の質の向上をめざし、自己研鑽を重ねる。
4、地域・医療・福祉との連携を図り、継続したケアーが提供出来るよう取り組む。
5、社会の変化に対応し、柔軟な発想で業務改善を行う。

さくら病院の患者権利７カ条

患者様は、「患者中心の医療」の理念のもとに、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は、患者様と医療提供者とがお互いの信頼関係に基づき、共同してつくり上げていくものであり、患者様に主体的に参加していただくことが必要です。

地域の皆様の生命と健康を守ることを使命とするさくら病院は、このような考え方に基づき、ここに「患者権利７ケ条」を制定します。

さくら病院は、この「患者権利７ケ条」を守り、患者様の医療に対する主体的な参加を支援していきます。

1、だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。

さくら病院は患者様に対して常に公平であるとともに、適切で安全な医療の提供や、医療の質の向上を目指して知識・技の研鑽に努めていきます。

2、だれもが、一人の人間として、その人格、価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

さくら病院の職員は、患者様の個々の人格や価値観などを尊重し、両者がお互いに協力し合いながら医療をつくり上げていくよう努めます。

3、病気、検査、治療、見通しなどについて、理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受け、治療方法を自分の意思で選ぶ権利があります。

さくら病院の職員は、患者様とのコミュニケーションを大切にし、患者様の理解を助け、納得が得られるように努めていきます。また、治療方法の選択については患者様の意思を尊重いたします。なお、別の医師の意見（セカンドオピニオン）をお聞きになりたいという御希望も尊重いたします。

4、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

患者様とさくら病院は診療情報を共有しつつ、共同作業者として治療を進めてまいります。

5、診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

さくら病院は、個人情報の秘密の保持や私生活をみだりにさらされないようにという患者様のプライバシーの権利について、厳正に取り扱ってまいります。

6、納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けても良く理解できなかったことについて、十分理解できるまで質問する権利があり、同時に治療の指示を守る責務があります。

患者様が、治療等に関する十分な説明や情報提供により納得のいく医療を受けていただくために、そして治療法等を自分の意思で選択していただくためにも、分からないことがあれば何度でもさくら病院職員に質問してくださるようお願いします。

7、すべての患者様が適切な医療を受けられるようにするため、患者様には、他の患者様の治療や病院職員による医療提供に支障を与えないように配慮する責務があります。

病院では、職員が数多くの患者様に様々な医療を提供しています。そのため、患者様は通常の社会生活にはない制約を受けざるを得ないこともあります。このことを十分御理解していただき、適切な医療の提供に御協力くださるようお願いします。

福岡市救急病院協会 海外視察研修を終えて

まだ肌寒い2月3日より、さくら病院から2名、他病院含めて総勢18名にて、ハワイの海外視察研修に参加しました。

現在は、福岡空港から直行便が出ており、20:30に出発し、7時間25分という短い時間でホノルルへ到着しました。

空港に降り立つと、好天気で青空が広がり、海風が心地良く感じました。

今回の視察研修は、今までとは一味違った趣向で、太平洋の真ん中にある世界で最も大陸から遠い島で、人口密度の高い大都会で起こっている複雑な人間関係やストレスの溜まる原因となるネガティブな波動の影響を受けにくいという恵まれた環境にあり、嫌な波動を出さなくなると言われているハワイを訪れました。

レイア高橋さんによる講習会『ハワイアンヴァリュー～大自然とともに生きるハワイアンの受け継がれてきた原点～』では、心の在り方をポジティブに変えることによって、たくさんの人に愛を伝えることができる事を学びました。

また、実際に古代ハワイの寺院、ハワイ王族の生誕の場所やオワフ島最古の神殿などを訪れ、目で見て、耳で聞き、匂いをかぎ、肌で触れる事で、大自然のエネルギーを吸収し、『ハワイアンヴァリュー』を体感する事ができました。

今後、研修会から得た知識と体験を、仕事に活かしていきたいと思います。

自由行動では、二人とも初めてのハワイのサンセットを見ながら浜辺を歩いたり、ツアーに参加することでリゾート地としてのハワイを満喫しました。

帰路では上空から雪の積もった富士山も見ることができ、充実した視察研修となりました。

栄養科　末信早苗
リハビリテーション科　江口和子

平成24年度 さくら病院活動報告

H24年 4月	新人オリエンテーション（前期）
5月	第14回さくらフォーラム（タカクラホテル福岡）
6月	消防避難訓練（前期）
7月	H24年度1回目　ボランティア・スタッフ学びと交流のつどい ２内科　七夕会
8月	第13回さくらグループ業務改善コンテスト（山の上ホテル） ビアパーティー（山の上ホテル） H24年度1回目　医療安全管理研修開催
9月	ＩＳＯ外部審査受審
10月	H24年度2回目　ボランティア・スタッフ学びと交流のつどい 新人オリエンテーション（後期）
11月	H24年度2回目　医療安全管理研修開催 地域モニター会
12月	消防避難訓練（後期） 城南保健所立ち入り検査
H25年2月	さくら病院新年会 H24年度3回目　ボランティア・スタッフ学びと交流のつどい
3月	２内科　ひなまつり会 九州厚生局適時調査 H24年度3回目　医療安全管理研修開催

平成24年度入職者一覧

平成24年 4月
成重　友莉
伊藤　久華
古屋　陽子
樋口　景子
岩永 百合子
瀬戸口 祥子
池田 佳代子
浦方　裕子
山口　沙織

6月
中村　瞳
大道　裕子
平山 結季子
金子 ひとみ

7月
松野　岬
井上　咲
百武 尚子
佐田 恵子

8月
山下　和代

9月
山下　佳代
矢野　美佳
渡邉　絵梨

10月
南目　史子
緒方　千春

11月
多田　寛子

12月
糸野　美香

平成25年 1月
尾方 美智代
平原 田美子
新中 かおり
長野　美佳

2月
益田 百百子
吉住　昭代

3月
倉野 さやか
中野　由美
馬場 由美子
田口 須美子

部署紹介

1内科 ご紹介

1内科係長　道脇孝子

1内科病棟は1日24時間を平均して患者さん7名に対して看護師1名が配置される7対1看護体制を取っています。

ほとんどの患者さんは当病棟に入院され急性期治療を行っていますが同時に入院時から患者さん、ご家族の要望を確認し安心して早期退院できるように医師、受け持ち看護師、専任看護師、MSW(医療相談員)、理学療法士など他職種とも連携を図り支援を行っています。

また一人暮らしの方や高齢夫婦で介護を必要とされている方なども安心して生活の場に戻れるように必要な社会資源は何かを考えながら担当ケアマネージャーなどに情報提供し今後の方向性についても検討を行っています。

平均在院日数が18日以内と入院期間は短いですが、その間に患者さんやご家族とのコミュニケーションを心掛け、信頼関係の構築に努めています。

また当病棟のスタッフは44名と部署としてはとても大きな病棟ですが、チームの団結力が強く一人ひとりがお互いを認め合う精神を持ち合わせているため、とても活気があり働きやすい病棟です。この明るさや相手を思いやれる優しさを一人でも多くの患者さんに提供できるように今後もスタッフ一同、取り組んでいきたいと思います。

ISO事務局より

さくら病院
ISO9001活動の報告

ISO事務局　松本正幸

さくら病院は、2003年12月に初めてISO9001の認証を取得してから9年間ISOの活動を継続しています。

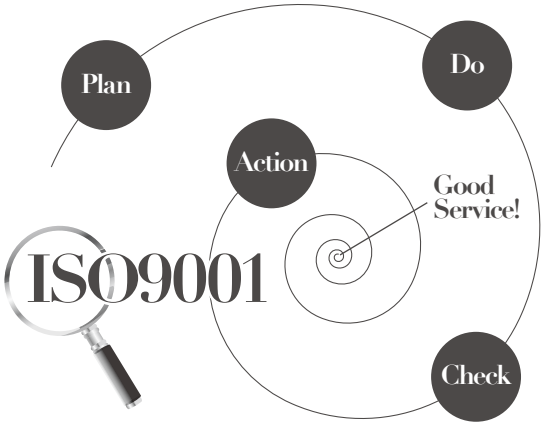
取り組み始めた当初は、医療業界になじみのない用語が多く、その解釈に四苦八苦しながらのスタートでした。また、それまでバラバラだった、業務手順を統一し明確にして文書化することは、大変骨の折れる作業でした。現在でも、業務手順が変更になるたびに手順書は、変更・更新していますが、ISOの文書類を活用できるメリットは大きいと感じます。

図や写真を用いて工夫した手順書や様式類は、院内のどこからでも、ネットワークで参照できるので、職員全員が常に正しい手順を確認することができます。また、新入職員のOJTのテキストとしても使用しています。

ISOでは、事故の発生や業務に不具合が生じた場合などには、改善する対策を行います。そして、次から同じトラブルが発生しないように工夫します。この一連の仕組みを「是正処置」と呼び、これも記録として残します。また、他の組織で発生した事故の事例であっても、今後、自院で発生することが懸念される場合は、事前に予防策を講じます。これを「予防処置」と呼びます。

この他にも年度の初めに、各部署各々が年間目標を設定し一年を通して、職員全員が業務改善活動に取り組んでいます。

ISOの活動は、計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)を繰り返すことで、らせん階段を一歩ずつ上がっていくように、サービスの質を向上させていく仕組みです。ISOの活動を通して、職員みんなで、一つ一つ工夫することを楽しんでいき、結果として、より良い医療サービスの提供ができればと思います。



H25 2/16 出張 いきいき公開セミナー

「シニアクラブ健康講座」

講師：岩崎敬雄（さくら病院整形外科担当医）

肌寒い2月16日（土）、江陽館にて片江校区シニアクラブ連合会主催のシニアクラブ健康講座が開催されました。テーマは「健康でいきいきとした高齢を送るためのポイント」。

講義は、運動器症候群に着目した内容で、特に、ロコモティブシンドロームの三大要因にあげられる骨折、変形性関節症、脊柱管狭窄症等について、骨・関節・筋肉の構造とその発生機序について説明がありました。

また、転倒・骨折は、高齢者の寝たきりの原因の第3位となっているので、高齢者の多い骨折部位、子供と高齢者の骨折の違い、寝たきりによる廃用症候群について、分かりやすく説明してもらいました。

50名以上参加者があり、熱心に講義に耳を傾け、質問もあり、盛況のうち終了しました。

ロコモティブシンドローム（ロコモ）～運動器症候群～の定義

主に加齢による運動器の障害のために、移動能力の低下を来し、要介護になっていたり、要介護になる危険の高い状態がロコモティブシンドロームです。

ロコモティブシンドローム（ロコモ）～運動器症候群～の三大要因

①骨粗鬆症、骨粗鬆症による骨脆弱性骨折
②変形性関節症や関節炎による下肢の関節機能障害
③脊柱管狭窄による脊髄・馬尾・神経根障害

新・7つのロコモチェック

ロコモチェックをしてみましょう。
ひとつでも当てはまれば、ロコモである心配があります。

- □ 家のなかでつまずいたり滑ったりする
- □ 階段を上がるのに手すりが必要である
- □ 15分くらい続けて歩けない
- □ 横断歩道を青信号で渡りきれない
- □ 片脚立ちで靴下がはけない
- □ 2kg程度の買い物をして持ち帰るのが困難である
- □ 家のやや重い仕事（掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど）が困難である

ロコモーショントレーニング

やりすぎず、気持ちが良いと思える程度に
身体を動かすことを、続けましょう。

その①

開眼片脚立ち

○左右1分間ずつ、1日3回行いましょう。
○踏ん張って片脚でバランスをとることを意識しましょう。
○転倒しないように、必ずつかまるものがある場所で行いましょう。
○床に着かない程度に片足を上げます。

※いずれのトレーニングも、支えが必要な人は、医師と相談して机に手や指をついて行います。

その②

スクワット

○深呼吸をするペースで5～6回繰り返します。1日3回以上行いましょう。
○大腿の前後の筋肉、お尻周囲の筋肉に力を入れることを意識して下さい。
○安全のために、椅子やソファーの前で行いましょう。
○足は踵から30度くらい外に開きます。開いた足の第2趾の向きに膝を曲げます。曲げた膝頭がつま先より前に出ないようにします。

2内科 ひな祭り会

今年の春一番も訪れた後の3月4日、会場に沢山の患者様、ご家族をお迎えしてさくら病院2内科主催のひな祭り会を開催しました。参加者全員で「うれしいひな祭り」の歌でいよいよ始まりです。

お一人目は、「ひな祭り会で歌うのよ」と朝から落ち着かず、午前中は休息されていよいよ本番「きよしのズンドコ節」で賑やかに会場の雰囲気を盛り上げていただきました。お二人目も90歳を超えられた患者様の見事な歌声に大きな拍手、お一人目の方はまだ歌を披露したくて再度出演され、見事に三番まで熱唱されました。

職員も沖縄舞踊「エイサー」を披露させていただき、短い練習期間での踊りで楽しんでいただけるか心配でしたがボランティアさんの三線での伴奏のおかげもあり上手に踊れたようで沢山の拍手をいただきました。いつも参加していただく三線の皆さん、今回は、六人も来て頂き、女性の方の沖縄衣装で会場も華やかで懐かしい曲の演奏と歌で皆さんも一緒に歌われ、次々に患者さんの歌と踊りに大拍手で大変盛り上がりました。

「楽しかった」「三線の演奏と歌良かったね」「踊りが上手だったね」「茶話会のお菓子おいしかったよ」「私も足が良くなってたら一緒に踊りたかった」「病院に居たこと忘れてた」「久しぶりに歌って血圧上がったかな（笑）」など、沢山のお褒めの言葉を頂き、職員一同安心しました。

こんにちは!

医療連携相談室です。

どうぞお気軽にご相談ください。

医療連携相談室では、患者様・ご家族からの様々なご相談を承っています。

例えば、当院への入院のご相談・退院後の生活に対する不安・介護サービス等社会資源のご紹介・経済的な問題についてなど、一緒に考えさせていただいています。

また、患者様へ適切な医療が提供できるよう、地域の診療所や病院・施設・在宅サービス事業所等との連携に努めています。

どうぞお気軽にお声かけください。

医療連携相談室

TEL 092-801-7386（事務課）
FAX 092-864-1213（直通）

担当者　医療連携相談室長
楠原　浩之
医療ソーシャルワーカー
小川　美和・松山　章子・山内　めぐみ

相談受付　平　日：午前9:00～午後5:00
土曜日：午前9:00～午後12:30

外来診察表

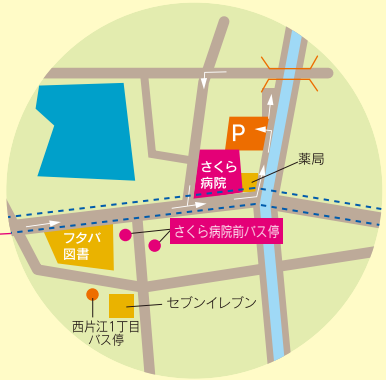
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	第1診察室	江頭（芳） 総合診療科／脳卒中・胃腸科	江頭（芳） 総合診療科／脳卒中・胃腸科	江頭（芳） 総合診療科／脳卒中・胃腸科	江頭（啓） 総合診療科／東洋医学科	江頭（啓） 総合診療科／東洋医学科	江頭（啓） 総合診療科／東洋医学科
午前	第2診察室	楠原 内科／消化器科（肝臓）	王寺 内科／胃腸科	秋満 内科/循環器	西本 内科／胃腸科	王寺 内科／胃腸科	楠原 内科／消化器科（肝臓）
午前	第3診察室	花野 内科／消化器科（肝臓）	村上 内科／心療内科	天野 内科／胃腸科	天野 内科／胃腸科	古屋 内科／消化器科	井手 内科／糖尿病外科
午前	第5診察室		熊谷 循環器内科	岩崎 リハビリ・整形科			
午後	第1診察室	江頭（芳） 総合診療科／脳卒中・胃腸科	江頭（芳） 総合診療科／脳卒中・胃腸科	王寺 内科／胃腸科	江頭（啓） 総合診療科／東洋医学科	江頭（啓） 総合診療科／東洋医学科	
午後	第2診察室	秋満 内科/循環器	西本 内科／胃腸科	白橋 内科／血液・腫瘍	楠原 内科／緩和ケア	秋満 内科／循環器	
午後	第3診察室	村上 内科／心療内科	知念 内科／胃腸科	佐々木（靖） 循環器（隔週）	早田 内科消化器科（肝臓）	知念 内科／胃腸科	
午後	第5診察室	古屋 内科／消化器科				中園/江藤 内科／心療内科	
専門外来（予約制）	午前		村上 心療内科　熊谷 循環器	岩崎 リハビリ外来		渡辺 呼吸器内科外来	井手 糖尿病外来
専門外来（予約制）	午後	川添 神経内科　村上 心療内科		白橋 血液・腫瘍外来　佐々木（靖） 循環器外来	楠原 緩和ケア外来　早田 肝臓外来	安部 脳神経外科　中園/江藤 心療内科	

病院までの交通アクセス

■ 地下鉄七隈線
（福大前下車、1番出口より徒歩10分）

■ バス（西鉄バス西片江1丁目バス停下車）
西鉄バス系統番号
（天神方面より）　12,13,14,61,114,140番
（西新・飯倉方面より）　95番
（博多駅方面より）　12,13,16,18,64,114,140番
（桧原・片江方面より）　6,12,13,14,16,18,61
64,95番

■ 車（病院裏手に専用駐車場があります。）
天神より約30分・堤ICより約5分



医療法人社団　江頭会　さくら病院
在宅医療介護センターさくら

社会福祉法人　桜花会
桜花会 ライフケア大手門

社会福祉法人　桜花会
特別養護老人ホーム ライフケアしかた

高齢者安心ハウス
あっとほーむ片江

〒814-0142　福岡市城南区片江4丁目16-15
TEL092-864-1212　FAX092-865-4570　E-mail:info@sakurahp.or.jp
ホームページ：http://www.sakurahp.or.jp/（4月ホームページを更新いたしました）

直通TEL
事務所 092-801-7386
ユニット 092-872-5615
1内科 092-872-5611
2内科 092-872-5612
3内科 092-872-5613